

■履修モデル：住宅やインテリア関連の仕事がしたい。
 （建築士以外のインテリアコーディネーターやハウジングアドバイザーなど）

- ・住まいの計画や設計に関する科目を中心に履修する。
 （構造力学、住生活設計Ⅱ、まちづくり企画、まちづくり設計などは必ずしも履修する必要はない。）
- ・生活者の暮らしや心理に配慮した人に優しい住まいづくりに役立つ福祉・心理関連分野の科目を履修する。
- ・なお、このモデルは、建築士資格の取得を想定していないが、実際、インテリアコーディネーターやハウジングアドバイザーとして働く人の中には、二級建築士資格を持っている人もいますので、将来のキャリアアップのために、建築士の受験資格を取得しておくことが望ましい。

【履修例】

区分		1年次	2年次	
		科目名	科目名	
基礎科目	語学基礎	・語学Ⅰ （英語、ドイツ語、フランス語、中国語）		
	専修基礎	・生活科学概論		
共通科目		・心理学 ・ジェンダー論 ・情報処理実習Ⅰ	・美学 ・比較文化論 など	
専修科目	生活基礎	・住生活論 ・衣生活論 ・食生活論	・生活経営 ・地域づくり実践(2年次) など	
	福祉・心理関連分野 （専修第一分野）	・老人福祉論 ・介護概論 ・発達心理学 ・家族関係学	・子どもの健康 ・保育学 など	
	居住環境関連分野 （専修第二分野）	建築系科目	・インテリアデザイン ・建築製図基礎 ・住生活設計Ⅰ ・居住計画論 ・居住福祉論 ・居住設備学 ・建築環境学 ・建築一般構造 ・建築材料学 ・住環境計画 ・地域環境学	・建築法規 ・建築構法 ・建築計画 ・建築史概論 ・建築CAD基礎 など
		環境系科目	・環境共生論 ・環境倫理学	・生態系の科学 など
	その他	・居住環境基礎(1年次)		
	演習		・居住環境特別演習	

（注意）

この履修モデルはあくまで参考例として示すものであり、この通りに履修する必要はない。
 卒業要件や資格取得要件を念頭に、時間割とシラバスを確認の上、履修科目を選択すること。
 1年間に履修できる単位数は50単位までであるため、計画的に履修すること。
 履修申告書を提出する前に、クラス担任(教員)のチェックを受けること。